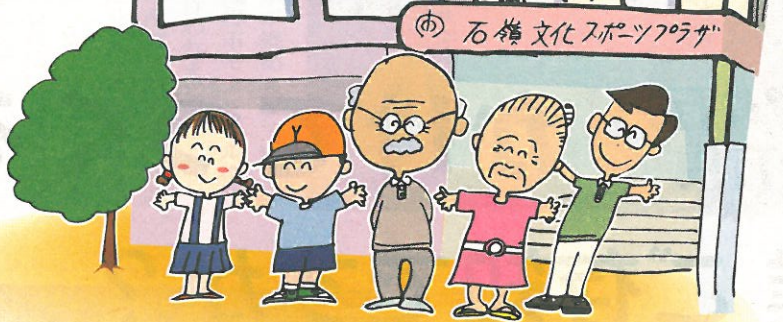


1年間で30億円

ごみ処理にこれだけかかっています

30億円で
公民館、図書館、プールを併設した
「文化スポーツセンター」が3つ建設できます。

石嶺文化スポーツプラザ 建設費
十億六千九百万円



ごみ排出量は、12万7千トン（年間）

2トンパッカー車に乗せて
並べると沖縄本島を往復し
ます。



ごみを1トン処理するには
2万3千円。
2トンパッカー車の中には
4万6千円のごみが乗っています。

南風原町での那覇市のごみ処理の経過

- 昭和41年9月 南風原町新川に最終処分地確保（15,000坪）
- 昭和42年6月 コンポスト工場（50トン）完成
- 昭和44年5月 第一焼却炉完成
- 昭和47年11月 第二焼却炉完成
- 昭和56年12月 現焼却炉完成（300トン処理能力）
- 平成3年4月 那覇市と南風原町とで覚書・協定を締結
- 平成5年4月 現最終処分場完成

長年にわたって地域住民及び南風原町への不誠実な対応！

- 覚書・協定が不履行となっている現状
 - ・約束違反の可燃ごみの埋め立て処理
 - ・可燃ごみを埋め立てていることによる悪臭や害虫の発生
 - ・即日覆土がなされていない
 - ・大雨による汚水流出事故
 - ・台風によるごみの飛散
- 従って南風原町の意向は最大限に尊重しなければなりません。

機種選定の経緯

○選定の対象となった機種は

現代普及型 1 ストーカ+灰溶融炉

2 流動床+灰溶融炉

次世代型 3 直接溶融炉

4 熱分解+フラム+燃焼溶融炉

5 流動床型熱分解

+ 燃焼溶融炉

の五方式でした。

○選定の方法

那覇市及び南風原町の助役・部課長で構成された「ごみ処理施設建設委員会」でいろいろな角度より検討、議論し選定しました。

○検討結果

平成十年十月から平成十二年十一月まで二六回委員会を開催し、総合評価は「ストーカ+灰溶融炉」が望ましいとの結論でした。

○結果の公表

○平成十年十一月 マスコミに公表しました。

○平成十一年十一月、十二年二月、三月、五月に那覇市民及び南風原町民に説明等を行いました。

○前助役が二月議会で「現代普及型、次世代型の二方式を提案したかったが国庫補助の関係で一方式に絞りました。」と説明しました。

○平成十二年五月、七月に那覇市・南風原町ごみ処理事務組合議会と意見交換しました。

○平成十二年十二月二十八日翁長市長に埋め立てごみの再処理を南風原町議会が要望しました。

次世代型 （ガス化溶融炉）

比較表

現代普及型 （ストーカ炉・灰溶融炉）

● ゴミを八五〇度の温度で燃やして処理する方式である。

● ゴミを燃やすと約十パーセントの灰が出る。その灰を少なくするために溶融施設でスラッグ状態にする。

※ダイオキシン対策が必要である。

● 全国の市町村に実績が多く、炉の運転も安定性がある。

● ゴミを一三〇〇度以上の高温で溶かして処理する方式である。

● ゴミを高温で溶かしてしまつので灰がスラッグ状態になり排出量も少ない。

● 最終処分場に埋められたゴミの再処理が可能である。

● 施設全体がコンパクトで建設費が安くなる。

豆知識

○溶融施設

1300℃以上の高温で灰を処理する施設。

○スラッグ

ガラス状態の黒い結晶体

○ダイオキシン

塩化プラスチック系のごみを焼却（300℃～400℃での発生率が高い）の際にばい煙と共に排出される。毒性が強く発ガン性があり遺伝子異常を起こすとも言われている。高温では発生しない。